



ナイス福岡 会報

自然感

くすのき

2021年7月
第 312 号



「 “ 花一つ一つは小さいけれど、意外にカラフル。

そして、森の中の草花は夏でも涼し気。 “ ai」

お問合せ： 福岡県自然観察指導員連絡協議会
(NAIS Fukuoka : The Nature Interpreter Society of Fukuoka)

代表：田村耕作／事務局長：小野 仁

編集：田村耕作・山本勝・松永紀代子／会計：宮原俊彦

〒814-0113 福岡市城南区田島 3 丁目 7 番 14 号

田村の自宅内 TEL : 092-844 - 4381

URL : <http://www.kurabird.com/>

掲示板 URL: <http://bbs9.fc2.com/php/e.php/~naisfukuoka/>

★都市公園で自然観察会★

春日公園での自然観察会 (120 回)

日時：7 月 17 日 (土) 10 時から 12 時

公園が利用できるようになりましたので、
開催します。

【連絡先】 担当：田村 耕作

TEL 090-8220-6160 [田村の携帯]

注意 各団体とも、新型コロナウイルス感染拡大状況により、下記の予定も変更になることがあります。

詳しくは各団体にお問い合わせください。

日本野鳥の会 福岡支部 主催

※一般参加費：300 円（中学生以下無料）

8 月まで休止

天拝山探鳥会（筑紫野市）
時 間：8:00～11:00（夏時間）
集 合：天拝山歴史自然公園
問合せ：090-7165-5026（重松尚紀）

7 月 2 5 日（日） 8 月 2 2 日（日）
久末ダム探鳥会（福津市）
時 間：8:00～11:00（夏時間）
集 合：久末ダム多目的広場横
駐車場（管理事務所下）
問合せ：0940-33-7846（高原和幸）

8 月 1 日（日）
今津探鳥会（福岡市西区）
時 間：8:00～11:00（夏時間）
集 合：玄洋高校西側道路
問合せ：090-8220-6160（田村耕作）

8 月 1 4 日（土）
大濠公園探鳥会（福岡市中央区）
時 間：9:00～12:00
集 合：ボート乗り場前
問合せ：092-834-8644（持永俊行）

8 月まで休止
和白海岸探鳥会（福岡市東区）
時 間：9:00～12:00
集 合：JR 和白駅前の公園
問合せ：092-606-0012（山本廣子）

8 月 3 日（火）
県営春日公園（春日市）
時 間：10:00～12:00
集 合：音楽堂ステージ側（第 5 P）
問合せ：092-592-3423（小野仁）

日本野鳥の会 筑後支部

7 月 8 月
はお休み
です。

福岡植物友の会

8 月まで休止

問合せ：佃 昇（092-662-2983）
要予約 参加は有料

久留米の自然を守る会

7 月 1 1 日（日）
キノコの観察会
集 合：浦山公園駐車場（円形広場）
時 間：9:30～
小雨決行
問合せ：0942-43-7959（河内）

三国丘陵の自然を楽しむ会 主催

<http://mikunikyuryo.blog107.fc2.com/>

9 月 4 日（土）

8 月はお休みです。

集 合：九州歴史資料館駐車場
時 間：9:30～12:00（早めに終わるか
もしれません）

問合せ：092-920-3072

参加費：大人 200 円

コロナ対策：ブログにて確認

ブログ 「三国丘陵の自然を楽しむ会」で

[検索](#)

観察会や様々な生きものの情報を載せています

キボシツツハムシ・テリハノイバラ 三国・松永

三国丘陵の自然を楽しむ会 観察の様子

和白干潟を守る会 主催

7 月 2 4（土）
定例会議
時 間：12:30～14:00
集 合：和白干潟を守る会事務所
問合せ：092-606-0012（山本廣子）

7 月 2 4（土）
クリーン作戦 と自然観察会
時 間：15:00～17:00
集 合：海の広場 駐車場なし
長靴・軍手があると便利
問合せ：090-1346-0460（田辺スミ子）

コミスジ羽化 三国・松永

2021年6月 私のデジカメ日誌より 本のむし

今回は、6月1日(旧暦4月21日)～6月30日(旧暦5月21日)までのデジカメ日誌です。



6月3日(旧暦4月23日) 筑紫野市天拝坂
前月末から見なくなっていたアゲハの幼虫が居た!と思
ったが、幼虫の模様が違う。今度はナガサキアゲハの終
齢幼虫だ。これも2, 3日で姿を見なくなった。...



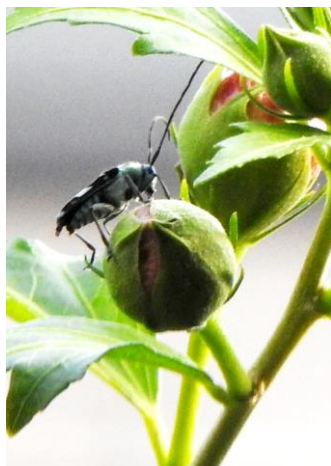
6月6日(旧暦4月26日) 筑紫野市石崎
コロナワクチンの接種に市役所へ行った。受付、問診、接
種、待機観察と非常にスムーズであった。役所裏手の JR
線路沿いにナワシロイチゴがとても美味しそうだった



6月14日(旧暦5月5日) 糟屋郡某所
数年ぶりにフクロウの親子を観た。筑紫野に越してきた二
十年前には、夜自宅から、鳴き声を聞くことが出来たが、
今はさっぱりである。樹洞のある樹が減っているのか。



6月24日(旧暦5月15日) 筑紫野市天拝坂
自宅周辺では、野鳥たちの出産ラッシュのようだ。左はシ
ジュウカラの巣立ちのようだし、右は子育て疲れの見える
スズメの親か。顔はすす汚れて黒い。他にムクドリ、キジ
バト、モズ、イソヒヨドリ、ボソとフトなど



6月9日(旧暦4月29日)	6月16日(旧暦5月7日)	6月26日(旧暦5月17日)	6月30日(旧暦5月21日)
ラミーカミキリ	トラマルハナバチ	(上)ミカドドロバチ (下)シオヤアブ	ジャノメチョウ

ムクゲを中心にたくさんの昆虫がやって来た。それを狙って鳥も来る。ここには生態系が出来ているようだ。ムクゲにラミーカミキリが来たのは、初めてだ。カラムシ等ではよく観ていた。調べるとカラムシ(ラミー)だけでなく、ムクゲにも卵を産み付けるらしい。千葉ではそれで枯れたムクゲもあるらしい。気をつけていよう。

会員からの投稿(1) 渋田 和美

季節は梅雨のはずなのにこの雲

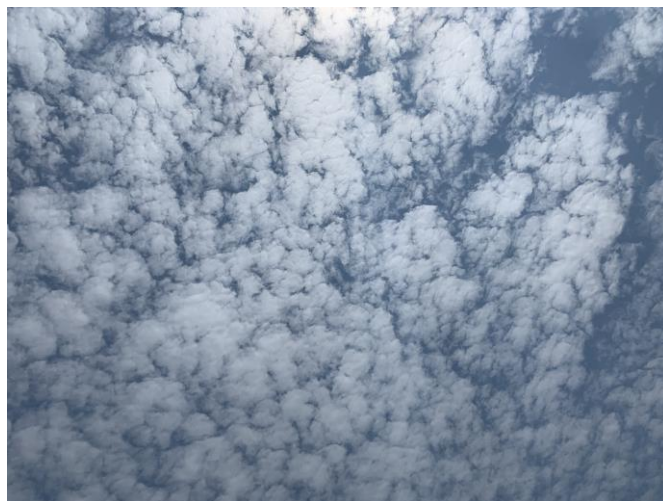
今何月なのかわからなくなります

6/22 宗像市にて撮影した空

この季節を感じさせるコマツヨイグサとネムの花

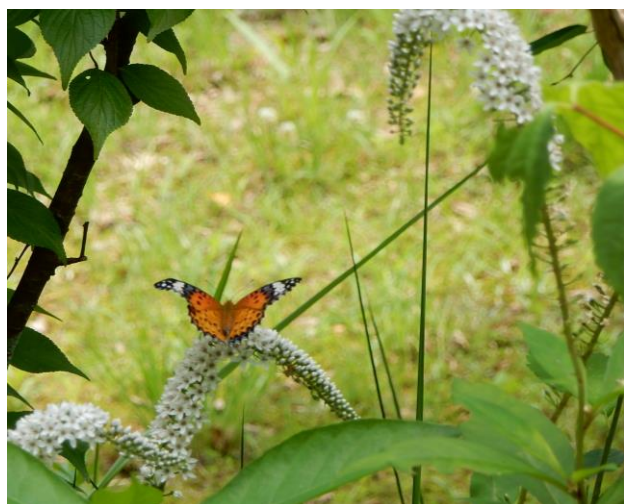
コマツヨイグサは花がオレンジ色に枯れていきますね

6/20 福津市



会員からの投稿(2) 窓越しの自然観察 41

～ 一期一会 ⑮ ～



冬季に季節外れの高温が度々入り込んで来て体調管理に振り回されたり、梅雨入りが記録的に早かったり、と関係があるのかないのか、季節の花々の咲き急ぎはアジサイも同様で、とにかく、気候変動は無視出来ないと感じる日々です。

昨年、庭先に姿を見せたオカトラノオは、気に入ったのか居場所を拡張し、仲間を結構な数に増やして姿を見せ始め、六月に入って一斉に首をもたげ次々に開花しました。地下茎で増えるの

だそうで、来年はどこまで領域を拡げているのでしょうか。切り花にして四、五日室内にしている内次第に花穂が痩せて細くなり、軸がむき出しになって来たので、よくよく見ると何者かが花や蕾を食しているらしい。

ツマグロヒヨウモンの幼虫ではなさそうですが、こんなところに尺取り虫？

(ダムサイト住人 2021/6/23 記)

会員からの投稿(3) 志賀 壮史

2021 年 7 月号 SDGs の 17 の目標 (その 8)

SDGs (持続可能な開発目標) の 17 の目標を少しずつ取り上げています。
今回は「飢餓をゼロに (Zero Hunger)」を取り上げたいと思います。

先日、うきは市にある野草ベーグルのお店 Plantago さんに行きました。山桑やイチジクの入ったベーグルがたいへんおいしかったです。お店の方と話をして繰り返されていたのが「土から育ってきたものを食べること」。スーパーやコンビニに並んでいるものだけが食べ物と考えるのではなく、身近な環境で育ったものを食べることが大事だというお話だと聞きました。

SDGs の 2 番目の目標である「飢餓をゼロに」ですが、内戦や紛争を原因とする飢餓のほか、農地が「経済」のために使われるようになったことを原因とするものもあるのではないかと思います。例えば、穀物を作ることができる場所で、輸出用の高級なフルーツやナッツ、嗜好品のコーヒーなどを育てる。それらを消費するのは国外の人でそこに住む人は自らの食料を得ることも難しくなった、といったような場合です。

フェアトレードの製品を購入する、地産地消を心がける、身近な環境で土から育ってきたものを食べる、といったことは、自身の健康だけでなく、どこかの飢餓を減らすことにもつながるんじゃないかと思います。

※参考 ベーグル (英語: bagel) は、小麦粉に水や食塩を加えて練った生地を発酵させリング状に成型したものを茹でてから焼成したパンの一種で、牛乳や卵やバターを使わない。東欧系ユダヤ人の宗教上の食べ物として知られる。出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



会員からの投稿(4) 田村 耕作

近くの樋井川で、4 月以後の散策で見かけた生きものの紹介です。今までの撮影記録から、野鳥、植物、昆虫を多く記録していました。

植物では、センダンの花、シナサワグルミの実、アカメガシワの花、旬に見かけたナワシロイチゴの実が美味しかった。カンレンボクはこの川で初めて見かけた。ヤブカンゾウの花、ノヂシャの花、ハマナデシコ、初めて見たムラサキウランユウゲシヨウ等を撮影していました。陸域からの雨による流れ込みで、いろいろな種が観察できるのでしょうね。特に、ムラサキ色の花が目立つアレチハナガサ、ヤナギバルイラソウは、川でも分布域を広げているようです。

野鳥は、アオサギ、ダイサギ、コサギ、そしてササゴイ、ハクセキレイ、カワセミ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、コチドリ、カワウ、ツバメ、ハシブトガラスを撮影していますが、サギ類とカラス類が見かける頻度が高いです。

昆虫は、私がどこを見ているかで、大きく変わらと思っています。2~3mまで伸びた草地では、モノサシトンボ、マユタテアカネ、少し開けた草地ではシオカラトンボ、オオシオカラトンボ、花の傍では、ベニシジミやヒラタアブの仲間、ツマグロヒョウモン、フタモンアシナガバチの肉団子を作る場面は偶然かな。砂地ではアオスジアゲハをよく見かけます。

もっとも驚いた生きものが、スッポンでした。平成 6 年から近くにいますが、初めて見ました。

たくさんの命が、樋井川という環境の中で、命をつないでいるようです。



みずみずしいナワシロイチゴの実



野生化したアヒルの親子

スッポン



